

# 久慈農業改良普及センターだより



普及センター情報 219号

平成22年3月30日発行

久慈農業改良普及センター

TEL: 0194-53-4989

FAX: 0194-53-5009

普及センターホームページは検索画面で…

久慈農業改良普及センター 公式

検索

## 産直と消費者の意見交換会を開催

平成22年2月20日久慈地域の産直代表者と消費者の意見交換会が久慈グランドホテルで開催されました。

産直は、地元の新鮮で安全な食べ物を消費者に届けながら店舗数、販売額ともに増加してきました。近年は出品者の減少や高齢化などにより販売額の頭打ち等の課題があります。

そこで、平成21年6月に設立された久慈地域産直連絡協議会の活動として、消費者の意見を聞き、改善点を探ることを目的として開催したものです。

消費者からは、「試食や食べ方のレシピが欲しい」「産直での店員とのふれあいが楽しみです」との意見や「冬期間の品揃えが少ない」「品質が落ちたものが見られた」など産直への注文も出されました。

産直側からは「消費者からの意見をしっかりと受け止め改善に向けて取り組んでいきたい。」との発言がありました。

さらに、消費者から農作業の体験や手伝いなどを通じ農業に関わりを持ち、地元農業を支援できるような機会を設けて欲しいとの意見があり、産直と消費者が共に有益な関係になる第一歩が踏み出された有意義な交換会になりました。



産直の代表者



消費者の方々

## 久慈地方生活研究グループ協議会活動交換会開催

平成22年2月26日野田村農村センターにて、久慈地方生活研究グループ協議会の活動交換会が行われました。

久慈地方生活研究グループ協議会は31グループ165名の会員があり、各地区連には自慢の料理がありますが、レシピが揃っていません。そこで生活技術の伝承活動として、各地区連ごとに料理を決め、料理実習を行いながらレシピの作成と写真撮影を行いました。

4地区連ごとのメニューは地元で取れたものを使った料理や伝統的な料理から選ばれ、久慈地区連は「とうふのコロッケ」、洋野地区連は「山菜ごはん」、野田地区連は新商品の「ふのりそば」、普代地区連は「八モの煮物」を作っていました。

調理中は参加したグループ員同士の活発な意見交換が行われました。また、実習を通して、各地区連間や若い世代へ料理の伝承が必要なことを感じていました。

昼食会では開催地の野田村村長も参加し、各地区の料理の説明を聞いて、感心しながら味わっていました。

今後も、開催地やメニューを変えながら、伝承活動を続けていくことを確認しあい、有意義な活動交換会になりました。



4地区連の自慢の料理が勢ぞろい



野田村村長にも参加していただきました。

## 26人がエコファーマーの仲間入り

～エコファーマーの認定証交付式が行われました～

環境に配慮した持続性の高い農業に取り組む生産者「エコファーマー」の人数は年々増加しており、久慈地方では昨年までに101名が認定されてきました。

3月10日には、今年度の認定証交付式が行われ、新たに認定される方25名、再認定の方1名の計26名に、東大野久慈地方振興局長から認定証が手渡されました。

新たに認定された方のうち、野田村の産直「ばあふる」の出荷者が7名、JA新しいわて野菜生産部会久慈支部の会員で、主にほうれんそうの栽培を行っている方が18名と、グループや組織をあげて認定に向けて取り組むケースが増えてきています。

これで久慈地域のエコファーマーは127名となり、取り組みの輪が広がっています。

普及センターでは今後も、認定取得に挑戦する方を支援するとともに、これまで認定されたエコファーマーと連携して取り組みをPRするなど、生産と販売の両面から久慈地域の「環境にやさしい農業」を盛り上げていきます。



認定証を受け取る“新人”エコファーマー

## 技術情報

### 水 稲

#### 1 育苗

##### 育苗培土の準備

自然土を使用する場合には、pH5.0～5.5に調整し、肥料や苗立枯病予防の農薬を、播種10日位前までに混和してください。

##### 種子の準備

自家採種種子は必ず塩水選を行いましょ。また、未消毒種子(自家産、購入とも)は、ばか苗病、細菌病類、いもち病等を対象とした種子消毒を必ず行ってください。

異なる品種が混ざらないように、十分に気をつけて管理を行いましょ！

##### 浸種

水温 12～15 で 10～7 日間浸種します。2～3 日おきに水を交換しましょ。なお、消毒方法が異なる種子は、別々の容器で浸種しましょ。

##### 催芽

温度は 30 を厳守し、ハト胸状態まで催芽します。

##### 播種量

1箱当たりの乾籾重の基準は、稚苗で 150～180g、中苗で 100～120g、成苗で 80g 以下です。厚播きすると軟弱で病害も発生しやすくなります。

##### 出芽

加温出芽(出芽機使用)を基本とし、温度は 30 を厳守してください。無加温出芽を行う場合には、被覆資材を使用して保温しましょ。出芽期間が長引くとカビ等の発生につながります。

##### 緑化～硬化

出芽機を使用した場合には、ハウスに並べてから 2～3 日は寒冷紗等で遮光しながら緑化を行い、その後は徐々に外気に慣らしていきます。

##### 育苗初期の温度・水管理

日中は 20～25、夜間は 5～10 に保つようこころがけましょ。かん水は原則 1 日 1 回、早朝に実施し、過かん水になりすぎないように注意しましょ。

#### 2 本田準備

水路掃除等、畦畔補修を行いましょ。また、秋にケイ酸質資材を入れていない圃場には、いもち病や倒伏防止等のため散布しましょ。

# ほうれんそう

平成22年度ほうれんそうの品種構成と留意事項について

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	へど病 抵抗性	主な特性
			上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中 下			
クローネ		←→ 2月上旬～4/20頃							←→ 9/10頃～9月下旬				R1～7	立性で収穫しやすく、ミストラルよりも株張りがよい。抽苔は比較的遅いが、4月下旬播種では生育不良で抽だいのおそれがあるので注意が必要。秋播きでは低温時には生育が遅れるので遅播きは避けること。
ハンター		←→ 2月上旬～4/20頃							◀▶ 9/10頃～9月下旬				R1～7	立性で収穫しやすく、株張りよく、収量性はミストラルを大きく上回る。秋の高温時に萎凋病が発生した例もあるので注意が必要。秋播きでは低温時には生育が遅れるので遅播きは避けること。日照不足で降雨の多い場合、株張りが細くなることもある。
スーパー スター				←→ 4/20頃～7月下旬									R1～5	晩抽性、立性で茎葉がしなり折れにくく、調製作業の能率がよい。高温期に土壌が乾燥すると、生育が止まりやすいので、かん水するなど土壌水分を保つ。プリウスより萎凋病に強い。
一般作型 プリウス				←→ 5/10頃～8月下旬									R1～5	やや生育が遅く、低温で伸びにくいので極端な早播きは避けること。抽だいは比較的遅く収量性が高いが、近年5～6月の乾燥時に生育遅延や抽だいが見られることもある。夏場の高温時には生育遅延や葉のトロケが多くなるので注意が必要。萎凋病に弱いので、夏播きでは必要に応じて耐病性品種に切り替えることも必要。
ジョーカー セブン							←→ 7月下旬～8月下旬						R1～7	立性でしなみあり折れにくい。低温で生育が遅くなるので極端な早播き、遅まきは避ける。乾燥で生育遅延しやすいので水管理に注意。スーパー スターより萎凋病に強い。
ミラージュ							←→ 8月中旬～9/20頃						R1～7	耐暑性に優れ高温期でも生育遅延等が起きにくく、涼しくなっても生育が遅れにくい。萎凋病に対しアクティブ以上の強い耐病性をもつ(スーパー スターより萎凋病に強い)。
クロノス	→									←→ 10月上旬～1月下旬			R1～7	低温伸長性に優れ、葉色は極濃緑、耐寒性、耐湿性があり、収量性はブレードよりも高い。温度が高いと軟弱に生育するので、早播きは避けること。越冬作型では使用しない(4月以降の収穫期で黄変や抽だいすることあり)。
寒 じ め				◀▶ 露地(9月上旬～9月中旬)			◀▶ ハウス(9月下旬～10/10頃)						R1～7	朝霧より生育遅いので、4～5日早播きとし播き遅れないように注意すること。高温乾燥で発芽が悪くなるので、播種時にムラなく十分にかん水すること。

←→ :主力作型    ◀▶ :補完作型

春の播種は遅れずに進めたいですが、5～6月に収穫が集中する傾向にあるので計画的な播種に努めましょう。

種子のサイズは品種や購入年によって異なることもあるので、播種前に必ず確認してください。また、種皮のカス等が含まれていた場合は、フルイにかけて異物を除去してから播種してください。

萎凋病対策は、耐病性品種(ジョーカーセブン、ミラージュ)の播種、土壌消毒、良質堆肥の適正施用など、総合的に防除を行いましょう。

寒じめほうれんそうは販売の引き合いが強いので、ハウスだけでなく露地も含めて作付を増やしましょう。露地栽培は寒じめだけでなく、今年は4月中旬～6月上旬播種、8月中旬～9月上旬播種の各作型も推進することになっています。マルチ栽培が前提で、除草作業の省力化や収穫時の品質確保もしやすいです。ハウス栽培を補うものとして少しの面積からでも取り組んでみてはいかがでしょうか。

## 転出者の紹介

平成22年3月で久慈農業改良普及センターから転出する職員から、長らくお世話になった皆様へ一言ご挨拶です。

<p>所長 茂市 修平</p> 	<p>【転出先】 農業研究センター 県北農業研究所</p> <p>【転出者より】 4年間大変お世話になりました！ 普及課長、所長としてそれぞれ2年間、大変お世話になりました。3度目の勤務でしたので、若い頃にお世話になった方々とまた一緒に仕事ができ、とても楽しく、充実したあつという間の4年間でした。また、立派に成長された後継者のみなさんの頼もしい姿に、久慈農業の明るい未来を感じさせられた4年間でもありました。まだまだ厳しい農業情勢ですが、皆様の益々のご活躍をご祈念し、御礼とします。本当にありがとうございました。</p>
<p>普及課長 君成田 陸</p> 	<p>【転出先】 宮古農業改良普及センター</p> <p>【転出者より】 このたびの人事異動で転出することになりました。3年間お世話になりました。 今回は2回目の久慈勤務でしたが、みなさんの温かい対応で大変仕事をしやすくてきたことに感謝致します。 転出先は宮古農業改良普及センターですが、久慈と同様に海を有する地区ですので、久慈を思い浮かべながら沿岸地区の生活を勉強したいと思います。大変ありがとうございました。</p>
<p>主任農業普及員 藤原 一道</p> 	<p>【転出先】 農業研究センター</p> <p>【転出者より】 久慈普及センター在任中は、地酒づくりや大川目の組織育成に関わったことなど、これまでにない多くの経験ができました。久慈地域には、豊かな自然環境やおいしい食べ物、温かい人々など忘れがたいものがたくさんあります。農業を中心に、ますます発展した地域になることを願っています。3年間大変お世話になりました。ありがとうございました。</p>
<p>主任農業普及員 桑原 政之</p> 	<p>【転出先】 中央農業改良普及センター</p> <p>【転出者より】 野菜担当普及員として、また久慈地方園芸推進センターの一員として、農家の皆さん、JAをはじめとする関係機関の方々のお力添えをいただきながら、ほうれんそう生産振興を中心とした活動をさせていただきました。 4月からは、中央普及センター 県域普及グループの野菜担当として、今までとは違った形ですが、当地域を応援していきたいと思います。3年間大変お世話になりました。ありがとうございました。</p>
<p>主任農業普及員 佐々木 利枝</p> 	<p>【転出先】 産前休暇・育児休暇</p> <p>【転出者より】 畜産と新規就農の担当として、4年間、お世話になりました。酪農、黒毛和牛、ほうれんそうの生産者の皆様はもちろん、短角牛やプロイラー、菌床しいたけなど、久慈地方ならではの生産者の方々にも幅広く本当にお世話になりました。 久慈では、山や里、海の食材の何をとっても大変、新鮮で美味しく、元気に過ごすことが出来ました。これから、産休に入らせていただくことになりましたが、復帰した際は、今後ともよろしく願いいたします。</p>
<p>農業普及員 佐藤 徹</p> 	<p>【転出先】 沿岸広域振興局 大船渡農林振興センター</p> <p>【転出者より】 4年間大変お世話になりました。私にとっての初任地であった久慈では、仕事を通じ、たくさんの良き思い出と多くの勉強をさせて頂きました。 転出先の沿岸広域振興局農林部では畜産行政の仕事に携わらせて頂きます。久慈での思い出を胸にまた仕事に励んでいきます。そして、またいつの日か久慈に戻ってきたいと思っておりますので、その際はよろしく願いいたします。4年間、本当にありがとうございました。</p>